



2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月8日

上場会社名 井村屋グループ株式会社 上場取引所 東・名
コード番号 2209 URL <https://www.imuraya-group.com/>
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 大西 安樹
問合せ先責任者（役職名） 取締役副社長ファイナンス室長（氏名） 富永 治郎（TEL）050-1791-2014
半期報告書提出予定日 2024年11月8日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	24,385	6.1	1,433	29.8	1,413	2.5	1,057	10.9
2024年3月期中間期	22,979	6.9	1,104	△3.4	1,378	△9.7	954	△28.6

（注）包括利益 2025年3月期中間期 974百万円（△15.8%） 2024年3月期中間期 1,157百万円（△7.8%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	80.84	—
2024年3月期中間期	72.91	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	37,678	21,557	57.2
2024年3月期	38,090	21,005	55.1

（参考）自己資本 2025年3月期中間期 21,546百万円 2024年3月期 20,985百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	0.00	—	31.00	31.00
2025年3月期	—	0.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	31.00	31.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	49,500	2.6	2,600	2.5	2,700	△7.0	1,850	△4.2	141.40

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年3月期中間期	13,086,200株	2024年3月期	13,086,200株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	2,478株	2024年3月期	2,303株
③ 期中平均株式数(中間期)	2025年3月期中間期	13,083,793株	2024年3月期中間期	13,084,170株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 経営成績等の概況(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報)	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、インバウンド市場などにおいて景気回復が見られる一方、原材料・エネルギー価格の上昇が継続し、物価高による消費マインドの停滞や、不安定な国際情勢等により、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループはパーパスである「おいしい!の笑顔をつくる」をさらに発揮するため2024年度より中期経営計画「Value Innovation 2026(新価値創造)」に沿って活動しております。その変革課題を「2030年を見据えた成長戦略の実行と経営基盤の強化」と定め、2030年へ向かってステークホルダーの皆さまと共に持続的な成長を志し、特色ある価値創造企業として社会から共感いただける井村屋グループを目指してまいります。

初年度となる2024年度は活動方針を「先義後利 そして備えよ常に!」として、長期的な視点で、社会貢献を重視する企業経営を行い、目標達成に向けた活動に取り組んでおります。

2024年9月には、三重県大台山系有数の渓谷である「香肌峡」に採水場「めぐるるの郷」をグランドオープンいたしました。日本では稀有な硬水の採水地であり、水資源の重要性を考慮して、保全・整備を行い、更なる活用を進めてまいります。

当中間連結会計期間における当社グループの売上高については、井村屋株式会社の菓子カテゴリーや夏場の主力となる冷菓カテゴリーの売上が増加しました。また、井村屋フーズ株式会社におけるOEM商品の受注が順調に推移しました。その結果、連結売上高は、243億85百万円(前年同期比6.1%増)となりました。

損益面では、引き続き原材料価格や物流費用が上昇する中、商品価格の改定を行うとともに、継続した生産性向上活動によるコスト削減を図ったことで営業利益率が向上しました。

以上の結果、営業利益は14億33百万円(前年同期比29.8%増)となり、営業外損益に為替差損1億7百万円(前年同期は為替差益2億6百万円)を計上した影響により、経常利益は14億13百万円(同2.5%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は10億57百万円(同10.9%増)となりました。

各セグメントの概況は次のとおりであります。

① 流通事業

流通事業(BtoC事業)の中心となる井村屋株式会社では、菓子・冷菓・デイリーチルドの各カテゴリーで売上が増加しました。BtoB事業の井村屋フーズ株式会社では、スパウチ商品の受注が順調に推移しました。

以上の結果、流通事業の売上高は221億68百万円(前年同期比6.7%増)となり、セグメント利益は20億35百万円(同26.9%増)となりました。

流通事業におけるカテゴリー別の概況につきましては以下のとおりです。

(菓子カテゴリー)

防災対策への関心が高まる中、長期保存が可能な防災備蓄用商品「えいようかん」、「チョコえいようかん」の売上が増加しました。また、以前より取り組みを進めてきました独自の冷凍技術を活かし和菓子のおいしさをそのまま提供する冷凍和菓子では、新商品「井村屋謹製 たい焼き(つぶあん)」が引き続き好評をいただき、売上増加に貢献しております。「カステラ」や「どら焼き」は前年同期の鶏卵不足が解消し、販売数量の回復にて売上が増加しました。

以上の結果、菓子カテゴリーの売上高は46億88百万円(前年同期比30.1%増)となりました。

(食品カテゴリー)

炊飯器で炊くだけで簡単に調理ができる「お赤飯の素」の売上が増加し、「ごはんの素シリーズ」では、季節限定商品の新商品「栗入りさつまいもごはんの素」を発売し好評をいただいております。また、野菜を切って入れてレンジ調理するだけで、手軽に副菜が作れる「レンジで煮物シリーズ」も順調に売上が増加しております。井村屋フーズ株式会社の食品加工事業では、屋外活動向けのスパウチ商品の受託加工が順調に推移しました。

以上の結果、食品カテゴリーの売上高は29億36百万円(前年同期比0.8%増)となりました。

(デイリーチルドカテゴリー)

豆腐類では「美し豆腐」が順調に推移し、その他業務用商品も売上が伸長しました。また、家庭内食向けの「チルドパックまん」の売上が増加しました。

以上の結果、デイリーチルドカテゴリーの売上高は7億47百万円(前年同期比3.4%増)となりました。

(冷菓カテゴリー)

主力商品の「あずきパー」シリーズが猛暑の影響もあり好調に推移し、上期において過去最高の売上本数2億65百万本を記録しました。微細氷入りの「SHALILI」シリーズでは新商品「SHALILI クリームブリュレアイス」が売上増加に貢献しました。「やわもちアイスシリーズ」においても、季節限定で発売した「やわもちアイス 栗づくし」が好評を得ております。マレーシアのIMURAYA MALAYSIA SDN. BHD.ではマレーシア産ドリアンの最高級品種「猫山王(Musang King/ムサンキング)」を贅沢に使用した新商品「MOCHI MOCHI MUSANG KING DURIAN&DURIAN」を発売し、販路拡大に取り組んでおります。

以上の結果、冷菓カテゴリーの売上高は118億32百万円(前年同期比5.1%増)となりました。

(点心・デリカテゴリー)

「肉まんあんまん」などの点心・デリカテゴリーは、コンビニエンスストアへの導入が始まる8月が記録的な猛暑となり、9月に入っても高温が続いたこともあり売上は前年同期より減少しました。

以上の結果、点心・デリカテゴリーの売上高は16億99百万円(前年同期比15.7%減)となりましたが、「肉まんあんまん」は今年度発売60周年を迎え、本格的なシーズンに向けて感謝の気持ちを込めたキャンペーンを開始しており、最盛期での販売強化に取り組んでおります。

(スイーツカテゴリー)

スイーツカテゴリーでは、客数の回復とともに「La maison JOUVAUD(ラ・メゾン・ジュヴォー)」各店舗の売上は広尾店、京都伊勢丹店が前年同期を上回りました。また、「アンナミラズ」では、8月にエキュート品川、9月には東京スカイツリータウン・ソラマチ(R)にポップアップショップを出店し多くのお客様にご来店いただきました。

以上の結果、スイーツカテゴリーの売上高は2億1百万円(前年同期比1.9%増)となりました。

(VISON(ヴィソン)カテゴリー)

VISON(ヴィソン)カテゴリーでは、三重県の水と酒米、酵母を使用し、テロワールに根差した日本酒の製造・販売を行う「福和蔵」と、和菓子販売する「菓子舗井村屋」の2店舗を三重県多気町の大型商業リゾート施設VISON内にて運営しております。「福和蔵」については、発売以来、様々な品評会で受賞をいただいておりますが、2024年5月には令和5酒造年度全国新酒鑑評会において「福和蔵 純米大吟醸」が初の金賞を受賞し、8月には全国燗酒コンテスト2024(プレミアムぬる燗部門)において「福和蔵 純米酒」が最高金賞を受賞するなど高い評価をいただきました。「菓子舗井村屋」においては、「酒々(ささ)まんじゅう 芳醸菓」や特色のある季節限定商品を販売し、好評を得ております。

以上の結果、VISON(ヴィソン)カテゴリーの売上高は62百万円(前年同期比8.7%増)となりました。

② 調味料事業

国内では井村屋フーズ株式会社のシーズニング事業において、得意先の内製化によるOEM(受託加工)売上の減少、そして夏場の猛暑による影響でスープ市場の需要が減速しました。コスト管理面では原材料の値上げに伴う販売価格の見直しを進め、昨年設備投資した新工場スプレードライヤー6号機はフル稼働に入り、生産性向上と環境負荷低減を図りつつ、利益確保に注力しました。

中国での調味料事業は、個人消費の低迷等から中国国内の売上が伸び悩みました。

以上の結果、調味料事業の売上高は21億7百万円(前年同期比0.6%増)となり、セグメント利益は2億80百万円(同10.5%減)となりました。

③ その他事業

イムラ株式会社においてSDGsの一環として井村屋商品のアウトレット販売を行っている「MOTTAINAI屋」は、引き続き地域のお客様に好評をいただいております。また、「ソフトアイスクリーム&スイーツ店WaiWai(ワイワイ)」においては、季節のデザートなども販売し売場の活性化を図りました。

以上の結果、井村屋グループ株式会社の賃貸事業を加えた、その他事業の売上高は1億9百万円(前年同期比1.5%減)となり、セグメント利益は人件費の上昇要因もあり18百万円(同24.8%減)となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

当中間連結会計期間の財政状態は以下のとおりであります。

総資産は376億78百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億11百万円の減少となりました。流動資産は、最盛期に向けた秋冬商品の供給体制を確実にするための製品在庫の増加があった一方で、売掛金の回収による減少などにより、47百万円減の143億79百万円となりました。固定資産は、有形固定資産の減価償却などにより、3億63百万円減の232億99百万円となりました。

負債は161億21百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億62百万円の減少となりました。流動負債は、短期借入金の返済などにより、7億93百万円減の136億9百万円となりました。固定負債は、繰延税金負債の減少などにより、1億69百万円減の25億12百万円となりました。

純資産は親会社株主に帰属する中間純利益の計上などにより、5億51百万円増の215億57百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第3四半期に向けて、下期の主力商品となる点心・デリ商品類の売上増加など、順調に推移する見込みではありますが、不安定な世界情勢を背景に原材料価格や物流コストの上昇が続いており、消費動向も依然として先行き不透明な状況を慎重に考慮し、2024年5月9日付の「2024年3月期決算短信」において公表いたしました業績予想につきましては現時点では変更はありません。

ただし、今後の業績推移等によって通期業績予想の見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示いたします。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,326,715	1,158,162
売掛金	8,084,740	7,559,309
商品及び製品	3,178,595	3,817,737
仕掛品	315,921	461,672
原材料及び貯蔵品	795,870	950,448
その他	726,521	433,520
貸倒引当金	△1,450	△1,411
流動資産合計	14,426,915	14,379,439
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	20,337,950	20,658,773
減価償却累計額	△11,730,635	△12,094,780
建物及び構築物(純額)	8,607,315	8,563,993
機械装置及び運搬具	20,318,959	20,647,600
減価償却累計額	△14,991,860	△15,558,568
機械装置及び運搬具(純額)	5,327,098	5,089,031
土地	4,369,858	4,369,858
その他	2,308,933	2,429,326
減価償却累計額	△1,167,396	△1,266,754
その他(純額)	1,141,537	1,162,572
有形固定資産合計	19,445,809	19,185,455
無形固定資産		
リース資産	110,105	95,922
その他	25,351	20,902
無形固定資産合計	135,456	116,824
投資その他の資産		
投資有価証券	2,233,321	2,046,732
退職給付に係る資産	1,404,321	1,412,813
その他	448,711	541,813
貸倒引当金	△4,276	△4,276
投資その他の資産合計	4,082,078	3,997,083
固定資産合計	23,663,344	23,299,364
資産合計	38,090,260	37,678,803

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,075,620	3,768,902
電子記録債務	1,911,032	1,910,703
短期借入金	3,700,000	1,650,000
未払金	3,527,395	4,083,474
未払法人税等	608,005	619,359
賞与引当金	652,551	799,663
その他	927,463	776,948
流動負債合計	14,402,069	13,609,051
固定負債		
執行役員退職慰労引当金	68,592	68,460
資産除去債務	143,213	143,798
その他	2,470,668	2,300,348
固定負債合計	2,682,474	2,512,606
負債合計	17,084,543	16,121,657
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,576,539	2,576,539
資本剰余金	3,810,519	3,810,519
利益剰余金	11,405,673	12,040,752
自己株式	△5,104	△5,536
株主資本合計	17,787,628	18,422,275
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	741,415	594,111
土地再評価差額金	1,930,419	1,930,419
為替換算調整勘定	△68,865	66,244
退職給付に係る調整累計額	594,532	533,295
その他の包括利益累計額合計	3,197,501	3,124,071
非支配株主持分	20,586	10,799
純資産合計	21,005,716	21,557,146
負債純資産合計	38,090,260	37,678,803

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	22,979,400	24,385,917
売上原価	15,018,283	15,694,463
売上総利益	7,961,116	8,691,454
販売費及び一般管理費	6,856,944	7,258,146
営業利益	1,104,172	1,433,307
営業外収益		
受取配当金	31,368	39,529
受取家賃	16,707	16,841
為替差益	206,515	-
その他	47,126	60,027
営業外収益合計	301,717	116,398
営業外費用		
支払利息	26,031	28,169
為替差損	-	107,252
その他	1,050	438
営業外費用合計	27,081	135,860
経常利益	1,378,808	1,413,846
特別利益		
補助金収入	42,969	42,533
受取補償金	-	59,429
その他	-	7,958
特別利益合計	42,969	109,921
特別損失		
固定資産除却損	344	314
棚卸資産処分損	-	40,513
特別損失合計	344	40,828
税金等調整前中間純利益	1,421,433	1,482,939
法人税、住民税及び事業税	576,907	541,669
法人税等調整額	△104,264	△107,772
法人税等合計	472,643	433,897
中間純利益	948,790	1,049,042
非支配株主に帰属する中間純損失(△)	△5,234	△8,684
親会社株主に帰属する中間純利益	954,025	1,057,726

中間連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	948,790	1,049,042
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	306,912	△147,304
為替換算調整勘定	△69,280	134,008
退職給付に係る調整額	△29,104	△61,236
その他の包括利益合計	208,527	△74,532
中間包括利益	1,157,317	974,509
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	1,162,452	984,296
非支配株主に係る中間包括利益	△5,135	△9,786

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,421,433	1,482,939
減価償却費	955,326	1,090,044
貸倒引当金の増減額(△は減少)	555	△39
受取利息及び受取配当金	△36,487	△42,007
支払利息	26,031	28,169
為替差損益(△は益)	△126,215	37,597
固定資産除売却損益(△は益)	344	△1,166
補助金収入	△42,969	△42,533
受取補償金	-	△59,429
売上債権の増減額(△は増加)	△4,892,520	534,104
棚卸資産の増減額(△は増加)	△702,028	△956,414
仕入債務の増減額(△は減少)	1,118,883	720,532
未払金の増減額(△は減少)	872,602	630,618
未払消費税等の増減額(△は減少)	86,848	△54,850
賞与引当金の増減額(△は減少)	141,677	147,110
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△35,000	△50,000
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△41,328	△87,686
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△730	△8,492
執行役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	336	△132
その他	115,548	238,092
小計	△1,137,693	3,606,458
利息及び配当金の受取額	36,487	42,007
利息の支払額	△25,996	△28,169
受取補償金の受取額	-	59,429
補助金の受取額	3,835	3,000
法人税等の支払額	△484,675	△458,825
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,608,042	3,223,900
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,720,595	△875,811
有形固定資産の売却による収入	-	1,481
無形固定資産の取得による支出	△233	△1,781
投資有価証券の取得による支出	△2,377	△2,508
投資有価証券の売却による収入	40	-
その他	7,445	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,715,720	△878,619

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	3,200,000	△2,050,000
長期借入金の返済による支出	△49,866	-
リース債務の返済による支出	△89,472	△83,932
自己株式の取得による支出	△399	△431
配当金の支払額	△370,483	△421,366
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,689,777	△2,555,730
現金及び現金同等物に係る換算差額	50,092	41,895
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△583,892	△168,553
現金及び現金同等物の期首残高	1,689,190	1,326,715
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,105,297	1,158,162

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	20,772,224	2,095,680	22,867,905	111,495	22,979,400
セグメント間の内部売上高 又は振替高	34,515	101,205	135,720	7,423	143,143
計	20,806,740	2,196,885	23,003,625	118,918	23,122,544
セグメント利益	1,604,444	313,453	1,917,897	24,955	1,942,852

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸・管理業及びリース代理業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,917,897
「その他」の区分の利益	24,955
全社費用(注)	△838,680
中間連結損益計算書の営業利益	1,104,172

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	流通事業	調味料事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	22,168,734	2,107,366	24,276,101	109,816	24,385,917
セグメント間の内部売上高 又は振替高	37,469	100,131	137,600	8,610	146,211
計	22,206,203	2,207,497	24,413,701	118,427	24,532,129
セグメント利益	2,035,627	280,573	2,316,200	18,761	2,334,961

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産の賃貸・管理業及びリース代理業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	2,316,200
「その他」の区分の利益	18,761
全社費用(注)	△901,653
中間連結損益計算書の営業利益	1,433,307

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。